

リリウ

「ふふ♪ まだ罪がおありますね♪  
はい、喜んでお相手を……懺悔を聞かせて頂きますね♪」

✧しゅり……くちゅ▽

(身体が動いた衣擦れの音)

リリウ

「でもそうなると……修道服を着たままですと、聖水も使ったので濡れてしまいそうですね。  
ちょっと脱いだ方がいいでしょうか？」

✧……さす▽

(悩むシスターを見ていて、つい手で胸を触ってしまう音)

リリウ

「んきやつ！？ も、もう！！ 急にどうされたんですか！？  
い、いきなり触るからビックリしちゃつたじやないですか！  
はえ？ 胸を突き出すみたいにしてるから、誘ってるのかと思った……です、か？  
あう……いえ、別にそんなつもりはないのですが。ああでも、嫌な訳でもないのですよ！ ……あう」

リリウ

「うー……もうっ！ 女性の体を、無節操（むせつそう）に触っちゃダメですよ！  
これは、もうあれです！ 色欲の罪です、間違いませんっ！  
普段も、つい女性の姿を見てしまったり、胸とか……じっと見てしまうとかあるんじやないですか！？」

✧しゅり……▽

(聞かれて、思わず目を逸らしてしまった音)

リリウ

「もう、その反応。ちょっと目が泳いでいませんか？  
やつぱり男の方は普段暮らしても、気になる方がいたらつい胸とか……目で追つてしまいものなんですか？  
うー……私の胸はだからでしょうか？ あまりそうした覚えはないのですが……。  
……いえ、神に仕える者として、別に寂しいという訳ではありませんよっ！」

リリウ

「……決めました！ 今からする懺悔は、貴方の色欲の罪に対してにしましょう！  
女性を、普段から淫らな目で見てはいけませんから！ なので胸に慣れて頂こうかと！ ……いいですねっ！」  
✧しゅる……ぱさつ▽

(修道服をはだけさせ、片方の胸をみせる音)

リリウ

「んっ……如何ですか？ その、小さいかもしませんが……形が悪いといった事はないと思うのですが。 その、周りのシスター達と比べても発育が甘いだけで、別段劣っているというか……あの、見劣りはしてない……と、自分では、思っているんですけど」

「はえ？　あ、この下着ですか？」  
「あ、はい……。その、借りたガーターベルトとセットになつてているもののよ

えへへ、こんなに透けてるとドキドキしちゃいますけど、でもデザインは可愛いから気に入っているんですよ?」

「え……あつ。…………えへへ♪

ほら、これ……覆っているだけですから、横からスッて指入れられて……胸、すぐに触れちゃうんですよ？」

（胸に触る音）

リリウ

「ん、あん……♪えへ……触られちゃいました♪

どうでしょ、揉み心地……はないかもしませんが、肌の柔らかさとか、張りつて……言うんですか？」

こう、胸の具合としてはぶにぶにしてて、撫でて楽しんで頂けるものだと思つてゐるんですけど……」

## （胸の感触を楽しむ音）

リリウ

「んんっ……あは♪ はい、楽しんで頂けてるなら何よりです♪  
ふふ、こうして熱心に触つて頂けていると……何だか、子供に甘えられてるみたいですね♪  
んっ♪ ふふ、私……結構教会の近所の子供と仲が良いんですよ？」

坡らも遊び相手にては、私が丁度良いのかも（しません）

《きゅつ……すり》

(胸をこねり 擦る音)

リリカル

こ、子供にこんな風に胸を触らせる訳ないじゃないです、か……あんっ♪  
お、思い出したのは甘えて貰ってるみたいで……うんっ♪ こ、子供を相手にしている時を、思い返しただけ……

…です、つて♪

ん～……ひやつ、あうつ♪ や、そんな乳首をつねらないでください……ひやうつ♪

リリウム

「も、そんな……おも、ちやみたいに、乳首弄つて……うんっ♪  
乳首をた、立たせてる方が悪いなんて、言わないで下さい……は、あう……くうっ♪  
子供、みたいだつて言われたと思って……お、怒られたんです、か？ ひやうっ♪  
む、う……だつて、すごく熱心に……いっぱい、触つて下さる、からっ♪」

三

甘えて……んぐつ、頑丈てよう

頼つて、頂けるのつて私……んつ、ひやつ！ 多分好き、なんだと……思います、んつ♪  
はあ……あ、あう……んつ♪ だから、私……教会の……こうして、罪を、聞いて……懺悔をして差し上げられ  
る教えにつ♪

とても、憧れて……いた、んですけど……こんな風に、罪を許して……あんつ♪

頬りにして、甘えて……んつ♪ いた、だけ……ますからっ♪」

リリウ

「あの……もし良ければなんですか……んん！」  
その、胸を……手じやなくて、口で……吸つて、頂けます、か?  
そっちの方が……甘えて、頂けてる感じがして……素敵、だなって♪  
あ、う……んんうつ♪」

（胸に吸い付く音）

リリウ

そ、そうです……あり、がとう……ございま、すつ♪  
んんうつ……あはつ、そうして、頂くと……すぐく、甘えて頂けるよう、で……うれ、しい……ですつ♪  
それ、に……こ、今回の懺悔は……色欲を抑える、ためのもの、ですし……うんつ♪  
私の、胸が小さい分……顔を寄せてより近くに、感じてつ頂ける……この形の方が、きっと……いいと、思うん、  
ですつ♪

あつ、う……んつ♪ む、う……やあ、舌が、乳首をコリコリ、捏ねてくるつ、はううつ♪』

リリウ

えへ、子供というより……赤ん坊のよう、です……ねつ、あは♪  
いっぱい、触れて頂けて……すごく、嬉しいです♪  
でも、これだと……あんっ♪ あ、貴方の懺悔というより……私が弄つて頂いて懺悔、してゐるようになつて、し

まう……のでつ♪

へすつ……くちゅ▽

(手を動かし、イチモツに触れる音)

リリウ

「んつ……あ、はつ♪ また、硬くなり始めてますね、貴方のつ♪

私の胸を弄って、遊んで頂いてるだけじゃ懺悔とは……言えません……からつ。

私も触つて、貴方に色欲を……我慢、させちゃいますから、ね？ んつ！」

へずつ……ぐちゅ、ぐちゅ▽

(イチモツを擦る音、以下背景でうつすらと)

リリウ

「んつ、さっきの聖水が……残つてて、すごいぬるぬる……ですっ♪

貴方の、液の名残も……ある、んでしょうねつ……んつ！

はうつ！ んつ……する、い……胸を、そんな吸われたら、私が貴方のを弄るのやり……にくいです、よおつ♪

うー……でも、女性の胸に慣れるため、ですもの……ね？

あう、すごくムズムズして、気持ちよくなつちやつてますけど……私も懺悔のために、頑張つて、我慢……しますから、ねつ！ ……んうつ♪」

リリウ

「んつ、んつ……んふ♪

段々、ぬるぬるの量……増えて、きています……よつ♪

ふふつ♪ 我慢……我慢ですからね？

私、もつ……貴方につ、こんなに胸を吸われながら、我慢……しているのですからつ。

貴方も……罪を、懺悔を……色欲の強さを、我慢しなきや……いけませんから、ねつ！

んんう、ああ……やあ♪ 我慢してるので、何かすごく……ムズムズ、キちやつて……ます♪」

リリウ

「ふー……ふー……ふー♪

いけない、人です……貴方、はあ♪ 色、欲をお……我慢して、下さいと言つてる……のにい♪ (※ここまでに

完全に右耳囁きに)

こんな、こんなに……私を、とろとろにして♪

貴方、自身も……とろとろをこんなにいっぱい出してつ♪

私の手え♪ もう、貴方の熱くなつてお肉の棒を……おちんちん握つて♪

すごく、すごくすごく……つ。 あつあつとろとろに、なつちやつてるじやないです……かつ♪」

リリウ

「これじゃ、全然……我慢に、なつてませんから……ね？

だから、もうちょっと……私、貴方に我慢をさせちゃいますからつ♪

胸でも、手でも……こうして触つてるのにもつと我慢が必要ていうなら……こう、ですっ♪

あ、はあー……むつ♪

ん、ちゅる、じゅる、じゅるちゅる、ちゅるれろ、ちゅるう、れろれろ、じゅるつ♪

——じゅる れろ……ちゅう、ちゅう、れろ ひちや……れろ  
れろ ちゅう、  
ちゅう……ふはい♪ フー……えへへえ♪

耳も  
こうして舐めたら  
ソケソケ……しますか？

ふふ♪ 口も脳も 手も使って……貴方の色欲 懺悔させちゃいますから♪  
はあ、むつ♪ んつ、れろ、れろれろ、ちゅう……じゅる、ぴちや、ぴちや、ぴちや、れろ、ちゅつ、ちゅう、じゅる♪

リリウ

「れろ、ちゅう、ちゅう、じゅるつ……ちゅるうつ♪  
れろ、れろ、くちゅうー……れろ、ちゅう、ちゅう、れろ、くちゅ……ちゅつ、ちゅつ、ちゅぶつ、ちゅつ♪  
ふはつ♪ あはあー……えへえー♪

貴方の耳も、貴方の口も……貴方のおちんちんも♪ ゼーーんぶ、私に触って、触られて……とろとろで、べとべと、です♪んつ……ふふ♪ こんなに、とろとろになるまで我慢して下さって……私の懺悔を受けて下さって。

リリウ

——ちゅ～♪ れる、ちゅ～♪ ちゅ～♪ れる♪  
じゅる……れちゅう、ちゅう、ちゅつ♪ んつ、ぷはあ♪ あつ、はー……はー♪  
どう、ですか？ 色欲、いっぱい……我慢、出来ましたか？

はあー……私、は。貴方が、吸い付いて……甘えて、頼つて

ふわふわでつゝ♪ 嬉しくつ、なつちやつて……ます♪  
あむつ、ちゅう……れろ、れろ、れろ、ちゅうつ、じゅぶ、れろ、れろ、ちゅう……れろおつ♪  
ぶはあつ……♪ これで鐵海、ちゃんと聞けてると思いたいんですけど、良い、です……か? —

リリウ

――はい♪ では、これで色欲の懺悔……ちゃんと、お聞きしたという事で♪ もう、我慢は大丈夫です。いっぱい我慢して下さった分、今ここで……びゅーって、いっぱい、いっぱい……出して下さって良いですからね♪

私も、頑張って下さった分……たっぷり出せるよう最後までお手伝いしますから♪

あむっ、れる、ちゅう、れろ、れろ、じゅぶ、れろ、ちゅう、れろれろれろ、ちゅう、じゅぶ、れろお、ちゅう  
うつ、れろれろ、じゅぶ、ちゅるううつ、ちゅぶつ♪

どうふお、だひれえ……くだけはいつ♪ れろ、ちゅう、れろお、ちゅつちゅつ♪

わたひのわ、手れえ……受け止め、させて……頂き、まふ……かふああつ♪

んつ、れろお―――――つ、ちゅぶ、じゅぶう、れろおつ――」

リリウ

「だひて、だひて、だひて、だひて……だひてえ、くだふあい♪  
主（しゅ）の色欲をお……許され、てますよお♪ ジュる、れろ、じゅる、れろれろおつ♪  
今、貴方は……精を吐き出してえ、良いのです♪ れろお、じゅる、じゅるうつ♪

神様に、許されながらあ♪ ジュるつ、れろつ♪ 私の、手をおつ♪  
れろ、れろ、じゅる、ちゅる、れろ、ちゅう、れろれろ、じゅる、ちゅうううつ、れろおおおつ♪♪  
ふあいつ♪  
あむつ、じゅる、ちゅる、れろ、ちゅう、れろれろ、じゅる、ちゅうううつ、れろおおおつ♪♪  
んつ、れろ、ちゅうううつ♪♪

△どくつ！ びゅつ、びゅる……びゅううううつつ！！』

(射精音)

リリウ  
「あつ……はあー……はあー……はあー……あ、はあ……♪  
すごい、こんなにたっぷり……さつきも出して下さったのに、いっぱい出でます……あはつ♪  
えへ、えへへ……手の中にローションじゃない、熱くてどろどろの、白くてくちゅくちゅいう貴方のおちんちん  
から出た液……子供の素、精液♪  
たっぷり、いっぱい……出してもらっちゃいました♪  
うふ、あは♪ こんなに出るくらい、色欲の罪を、懺悔として我慢して下さったんですね？」

リリウ  
「主（しゅ）は、貴方の罪を許し……その証をここに立てた事を喜ばれておられますよ♪  
私も、とても嬉しいです♪ 私の懺悔でこんなになつて下さって、本当にすごく……嬉しいんです♪  
懺悔をするために、私の体を弄つて……お願いした通りに我慢して下さつて。  
私を頼つて、いっぱいいっぱい、おちんちん……こんなにとろとろにして下さったの見てたら、とても……胸があ  
あつたかくなつてしましました♪  
ふふ、懺悔を聞く立場の私が喜んでいては、シスターとしておかしいかもしませんけど」

リリウ  
「所で……いっぱい我慢して、出されて……もう、懺悔は満足されたでしようか？  
……その、えと。実は……なのですが。懺悔をいっぱい聞かせて欲しいと言つたのもありますし……。  
貴方が、私の胸をいっぱい……弄られて、我慢する愛しい（あいらしい）姿も見せて下さったから。  
あの、その……あの！」

……私の体の奥が、火照つて。女の子の場所……ちょっと、とろとろ……してきちゃつて、まして……えつと

リリウ

「……まだ、何か罪を思い出せたり、しませんか？  
もし……まだ懺悔されたい事があるなら、その……貴方さえ、良ければなのですが」

リリウ

「次は、私の体の奥を使つて頂いて……私の中に、乙女の……シスターである私の、女の子の場所に。  
貴方の告白を……罪を償つた熱い証（あかし）を、注いで頂くような。  
そんな懺悔を……されたかつたりは、しないでしよう……か？」

△ぎし……つ』

(甘えるような問い、  
頷く音)